

不可能を、可能に — それが、SICKのセンサインテリジェンス。

SICK

Sensor Intelligence.

本社: 東京都中央区本町1-32-2 ハーモニータワー 13F TEL: 03-5309-2115
URL: <https://www.sick.com/jp> e-mail: support@sick.jp

Empowering the All Electric Society

フェニックス・コンタクト株式会社
www.phoenixcontact.co.jp

IIFESリアル展閉幕 4万2000人超来場も課題多く

原点回帰で顧客を見よう

計測・制御専門展の特長活か

1月31日から2月2日まで、東京ビッグサイトで開催された計測制御とオートメーションの専門展示会IIFESのリアル展が閉幕した。今回は、5日間で来場者数は4万2346人となった。来場目標は約5万人とされており、目標達成から近いところまでいく見通しで数値的には好成績だった。しかしイベントの盛り上がりや展示の質について出展者や来場者からは厳しい声も出ており、次回以降に向けて主催者も参加者も、もう一度考える必要がある。

機器展示少なく、厳しい声も

来場者からの声で最も耳が痛かったのが「自分の求めている展示がない」ということ。特に大手メーカーはシステムやソリューションそのものの説明ばかりで、具体的な製品やサービスの紹介が少ない。出展者は「自分たちの強みや特徴をうまく伝えることができない」と苦言を呈している。また、展示内容が重複しているという声も多かった。例えば、同じ分野の製品を複数の出展者が展示しているという声も多かった。

特別編

もう一度、IIFESを考える

オンラインは2月16日まで

1月31日から2月2日まで、東京ビッグサイトで開催された計測制御とオートメーションの専門展示会IIFESのリアル展が閉幕した。今回は、5日間で来場者数は4万2346人となった。来場目標は約5万人とされており、目標達成から近いところまでいく見通しで数値的には好成績だった。しかしイベントの盛り上がりや展示の質について出展者や来場者からは厳しい声も出ており、次回以降に向けて主催者も参加者も、もう一度考える必要がある。

自動車機器好調で増収増益

三菱電機は、2024年3月期第3四半期の決算を発表し、売上高は前年度比6.1%増の3兆7824億2000万円、営業利益は3.2%増の2223億3300万円、純利益は3.6%増の1860億9700万円の増収増益となった。

このほか、トヨタは売上高が7.9%増の6977億7824億2000万円、営業利益は21億1000万円増となった。国内の交通分野の需要回復と公共分野の投資が調子で、国内電力の設備投資も継続している。世界的な脱炭素化の影響も大きい。トヨタは、再生可能エネルギーに拡大する方針を安定化需要と見做している。また、トヨタは、再生可能エネルギーに拡大する方針を安定化需要と見做している。

増収増益 通期も上方修正

横河電機は、2024年3月期第3四半期決算を発表し、売上高は前年度比3.9%増の39億7700万円、営業利益は33.0%増の5億9700万円、純利益は33.0%増の3億9700万円となった。セクタール別では、制御事業の売上高は36.5%増の1億9700万円、営業利益は51.7%増の2億9700万円、純利益は51.7%増の2億9700万円となった。また、海外売上高は3.9%増の1億9700万円、営業利益は33.0%増の5億9700万円、純利益は33.0%増の3億9700万円となった。

大賞作品を発表

「現場川柳」とは、同社が定めた「センサの日」(10月3日)を記念して、ものづくりに関する「現場川柳」の募集が行われ、大賞作品を発表した。大賞は「現場川柳」の募集が行われ、大賞作品を発表した。

制御機器事業立て直し

オムロンは、制御機器事業の立て直しを推進している。オムロンは、制御機器事業の立て直しを推進している。オムロンは、制御機器事業の立て直しを推進している。

生産体制を強化 増収増益

アズビルは、2024年3月期第3四半期決算を発表し、売上高は前年度比7.5%増の200億4300万円、営業利益は45.7%増の23億1000万円、純利益は81.0%増の19億1000万円となった。アズビルは、2024年3月期第3四半期決算を発表し、売上高は前年度比7.5%増の200億4300万円、営業利益は45.7%増の23億1000万円、純利益は81.0%増の19億1000万円となった。

制御機器低迷し減収減益

オムロンは、2024年3月期第3四半期決算を発表し、売上高は前年度比7.5%増の200億4300万円、営業利益は45.7%増の23億1000万円、純利益は81.0%増の19億1000万円となった。オムロンは、2024年3月期第3四半期決算を発表し、売上高は前年度比7.5%増の200億4300万円、営業利益は45.7%増の23億1000万円、純利益は81.0%増の19億1000万円となった。

生産体制を強化 増収増益

アズビルは、2024年3月期第3四半期決算を発表し、売上高は前年度比7.5%増の200億4300万円、営業利益は45.7%増の23億1000万円、純利益は81.0%増の19億1000万円となった。アズビルは、2024年3月期第3四半期決算を発表し、売上高は前年度比7.5%増の200億4300万円、営業利益は45.7%増の23億1000万円、純利益は81.0%増の19億1000万円となった。

縦横取り付け可能! コネクタ端子台 VSFシリーズ

縦横兼用
スリム39mm幅
消えないマーキング
使用周囲温度65°C
Push-in 端子台

2 WAY FIT COMPLETE line

www.phoenixcontact.co.jp

縦横兼用コネクタ端子台

“PLCコネクタ端子台 & VARIOケーブル” セット
選べる! 使える! 必ずもらえる! プレゼントキャンペーン実施中!

Push-in簡単配線
1台で縦横取り付けOK
スリム39mm幅

フェニックス・コンタクト株式会社

Phoenix Contact

フェニックス・コンタクト株式会社

東京支店 さいたま支店 東北支店 北陸支店 静岡支店 名古屋支店 大阪支店 京都支店 広島支店 福岡支店

TEL: 03-6712-3088 048-631-3371 022-226-8890 076-210-4360 054-202-6324 052-589-3810 06-6350-2722 075-325-5990 082-568-1664 092-418-2030

azbil

あすみる、アズビル。

オートメーションで未来を描く

アズビル株式会社

Electronics Solutions Company

KANADEN

株式会社 カナデン

新製品・サービス

フェルルール圧着機3種

全自動・半自動卓上・自動ハンディ



東洋技研は、フェルルール端子の圧着作業を全自動・半自動で行う「ドイツ・GLW社製のフェルルール圧着機」を発売した。



非常停止アシスト 押ボタン無線操作

IDECは、離れた場所から非常停止用押ボタンを無線で操作できる「無線操作型非常停止アシスト」を開発した。

アズビル プラント制御高度化 ソリューション発売

アズビルは、プラントの制御高度化ソリューション「SORTEIA」を開発した。

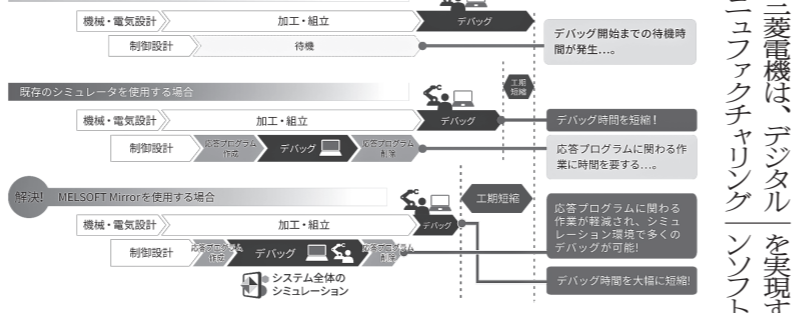
MECHATRO 対応バスカプラー

安川電機は、工場や生産設備のデータ収集を効率化できる「MECHATRO」に対応したバスカプラーを開発した。

東邦電子 「48mm角」指示調節器

東邦電子は、48mm角の指示調節器を開発した。2つの入力仕様を備え、高精度で動作する。

三菱電機 ロジックシミュレータ 実機レス机上検証



三菱電機は、デジタル・ソフトウェア群のひとこととして、大規模装置や生産ラインシステムを、まるごとシミュレーションできる「MELSOPT」を開発した。

「MELSOPT」は、実機レスで、物理的な接続作業を省くことで、導入効果は、最大50台の導入効果を実現する。

東邦電子 「48mm角」指示調節器

東邦電子は、48mm角の指示調節器を開発した。2つの入力仕様を備え、高精度で動作する。

また、用途に合わせたパラメータ調整レベルの選択が可能で、複雑な設定が不要な「ワンタッチ」操作を実現している。

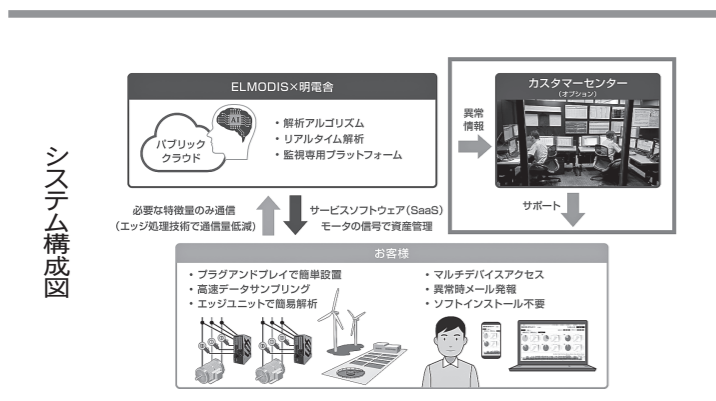
安川電機 MECHATRO 対応バスカプラー

安川電機は、工場や生産設備のデータ収集を効率化できる「MECHATRO」に対応したバスカプラーを開発した。

「MECHATRO」は、工場や生産設備のデータ収集を効率化できるソリューションとして、幅広い業界で活用されている。

ECADソリューションズ 電気設計専用CAD最新版

ECADソリューションズは、電気設計専用CAD「ECAD DCX 024」を2月27日に発売した。



明電舎 モータ遠隔監視システム 24時間365日体制で提供

明電舎は、2023年に発売した「T-01」によるモーターの解析・遠隔監視システムを開発した。

横河電機 高効率に細胞評価 HCAシステム

横河電機は、細胞培養の効率化を図る「HCAシステム」を開発した。

3Dプリンターを1人1台の時代に

A.switchは、3Dプリンターの普及を促進するための「A.switch Membership Model」を開発した。

BlackBear TechHive Japan株式会社. Your Security is Our Duty. OTサイバーセキュリティのための堅牢なハードウェアソリューション.

電気接触は、WashiON 共立継器におまかせください。商品ラインナップを強化し、お客様のニーズに応えます。お客様の「希望納期」にて対応します!!

電気設計から製造までデータがつながる

Efficient Engineering is when a PLAN becomes EPLAN.

制御盤製造の最適化ソリューション

https://www.rittal.com/jp-ja/ e-mail: contact@rittal.co.jp

リタール株式会社

Empowering the All Electric Society

PHOENIX CONTACT フェニックス・コンタクト株式会社

www.phoenixcontact.co.jp

Fukunishi

福西電機株式会社

本社 大阪市北区与力町7番5号

コーポレートサイト https://www.fukunishi.com

Empower Connections

つながりを力を

FA業界掲示板

オートメーション新聞WEB URL付き記事はこちらから→<https://www.automation-news.jp/category/topics/>

■三菱電機、FATEC On Demand購入者先着200人にAmazonギフトカードをプレゼント3月15日まで

三菱電機は、FA機器・配電制御機器の特長やご使用方法をリモートで学ぶことができる、ストリーミング動画形式の有償の学習サービス「FATEC On Demand」について、3月15日までに講座を購入すると、先着200人にAmazonギフトカードをプレゼントするキャンペーンを行っている。



■三菱電機、電子ビーム加工機の無料お試し加工サービス受付中

三菱電機は、銅やアルミ、チタンなどの難加工材も容易に溶接でき、変形や歪みが小さく、細く深く溶接できる電子ビーム加工機について、無料でお試し加工ができるサービスを実施している。

電子ビームによる溶接は、航空宇宙から半導体まで、さまざまな精密溶接で活躍しており、液化水素タンク(SUS316L)や半導体製造装置様部品のアルミ溶接、航空宇宙用部品のチタン溶接、自動車のトランスミッション部品、EVの銅材溶接などに使われている。

■三菱電機とNTT東日本、IOWNを活用した産業用ロボットの遠隔研修の実現性を実証

三菱電機とNTT東日本は、IOWN (Innovative Optical and Wireless Network、アイオン) におけるオール・フォトニクス・ネットワークを活用したユースケース創出に向けて、三菱電機の産業用ロボットとAPNプロトタイプ機を接続することで、産業用ロボットの遠隔研修の実現に向けた共同実証を行った。APNの特徴である「低遅延性」「ゆらぎゼロ」を生かし、物理的に離れた環境を1つの環境のように統合し、IOWN APN関連技術である「低遅延映像処理技術」を活用して通常の対面研修と同様の操作性を実現した。

これにより、オフライン(直接操作)と変わらない



操作性を実現し、両社は実証で得られた知見を生かし、産業用ロボットの遠隔研修に向けた他の課題抽出を進める。また将来的には、遠隔研修以外の活用例として「ティーチングトレーニングの遠隔ジム」などロボットエンジニア初心者がティーチ

ングスキルを磨く場を提供する新たなビジネスモデルの検討を進める。

IOWN (アイオン) は、あらゆる情報を基に個と全体との最適化を図り、光を中心とした革新的技術を活用し、高速大容量通信ならびに膨大な計算リソースなどを提供可能な、端末を含むネットワーク・情報処理基盤の構想。

■安川電機、テクニカルレポート公開「トータルソリューションにて世界の半導体を支える」

安川電機は、テクニカルレポート「安川電機のトータルソリューションにて世界の半導体を支える〜SEMICON Japan2023に出展〜」を公開した。

レポートではSEMICON Japan2023で展示した技術・製品を紹介し、クリーン度向上と振動低減、高精度を実現した半導体ウエハ搬送用の真空用ロボット「SEMISTAR-GEKKO VD31HQF」と大気用クリーンロボット「SEMISTAR-GEKKO MD124D」、業界最高クラスのモーション性能を持ち、デジタルソリューションを実現するサーボドライブ「Σ-X FT56」を使ったシステムなどソリューションを解説している。



■安川電機、技術論文「Σ-X: デジタルソリューションを実現するACサーボドライブ」公開

安川電機は、技術論文「Σ-X: デジタルソリューションを実現するACサーボドライブ」を公開した。論文では、ソリューションコンセプトである「i-Mechatronics」の説明のほか、Σ-Xのラインアップ、基本性能、最新機能を紹介する。また、制御技術の開発事例として、高い制振性能とユーザにとって使いやすい調整指針を両立したモーションコントロール機能について解説している。

■フェニックス・コンタクト、港産業が特約店に

フェニックス・コンタクトは、このたび港産業と特約店契約を締結した。港産業は、本社・徳島県徳島市で1950年創業のFA商社。社員数は128人。

■日東工業とShizen Connect、VPP構築を見据えたOCPP仕様のEV普通充電器を活用したDR実証を実施

日東工業とVPPプラットフォームを提供するShizen Connectは、VPPにより需給ひっ迫対策と小売電気事業者の電力調達コスト削減などを実現する「機器制御型DR支援サービス」のプラットフォームの拡大を目指し、日東工業製EV普通充電器「Pit-2Gシリーズ・4G通信モデル」のクラウドによる遠隔制御実証を行う。

EV充電器を遠隔管理・制御するための国際標準通信プロトコルであるOCPP規格を採用している日東工業製EV普通充電器「Pit-2Gシリーズ・4G通信モ

ル」とエネルギー管理システム「Shizen Connect」とをシステム連携させ、クラウド経由で充電を遠隔制御することによりDR制御を行い、その技術性・経済性を明らかにするもの。

■福西電機、ZEBプランナー登録

福西電機は、環境共創イニシアチブが公募する「ZEBプランナー」に登録された(ZEBプランナー登録番号ZEB2023P-00133)。

ZEBプランナーは、ZEBの実現を目的とした登録制度で、登録団体は相談窓口を有し、コンサルティングをはじめとした業務支援を行う。同社はカーボンニュートラル実現に向けたトータルソリューションをワンストップで提供することで、脱炭素社会、持続可能な社会の実現に貢献する。



■JWAA、定時総会と賀詞交歓会を開催

日本配線資材工業会(JWAA、松本年生会長)は、「第16回定時社員総会」と「賀詞交歓会」を東京・秋葉原UDXで1月26日開催した。

総会には56社の会員が出席し、松本会長を議長にして2023年(令和5年)度事業報告と収支決算報告、24年(6年)度事業計画と収支予算などを審議し、承認した。

総会の冒頭、1月1日に発生した能登半島地震の犠牲者への黙祷を行った。

松本会長は「新型コロナウイルスも昨年5月に5類に移行し、ようやく通常の生活に戻ることができた。私どもを取りまく市場環境は、約2年続いた資材不足がほぼ解消し、積み上がった受注残の処理が進む一方で、中国市場の停滞などもあり、予想以上に市中在庫が膨らみ在庫調整の局面を迎えている。九州や北海道での大型半導体工場の建設、大阪万博開催などを控え、また、新しいイノベーションとして、AIやDX、IoT、自動運転などの需要で躍進を期待したい。JWAAも設立から16年目を迎える。メーカーと商社が一堂に集まった団体として、会員企業に役立つ活動を行っていききたい」と述べた。

24年度は、西日本本部と青年部の活動推進、セミナー・勉強会と視察ツアーの開催、対外的認知度向上と会員数100社を目指した組織力強化などを計画している。

その後開かれた賀詞交歓会には134人が参加した。挨拶に立った関谷昭憲顧問は「今年は災害からスタートした。今年は長年で、電は強たくたくましく駆け上がり天に昇ると言われる。私たちが竜のように勢よく繁栄と隆盛を願いともに前進していこう」と述べた。加藤正広理事・西日本本部会長の乾杯の音頭で交歓に入った。

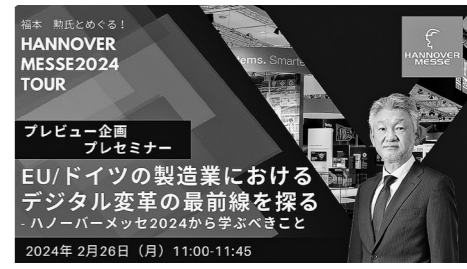
セミナー・イベント情報

■リタール、26日無料セミナー「EU/ドイツの製造業におけるデジタル変革の最前線を探る-ハノーバーメッセ2024から学ぶべきこと」

リタールは、2月26日11時〜無料セミナー「福本勲氏とめぐる! ハノーバーメッセツアー2024プレビュー企画 EU/ドイツの製造業におけるデジタル変革の最前線を探る-ハノーバーメッセ2024から学ぶべきこと」を開催する。

同社とEPLANは、2024年4月22日からドイツハノーバーで開催される「ハノーバーメッセ(HANNOVER MESSE) 2024」のツアーを実施する予定で、ツアーではアルファコンパス代表/東芝デジタルイノベーションテクノロジーセンターチーフエバンジェリストの福本勲氏を招待し、「欧州・ドイツ製造業DXの潮流」や「欧州におけるデータ連携基盤構築の動き」「インダストリー領域における生成AIなどの最新テクノロジー活用の動き」などについて、実際に会場で展示を見ながら解説してもらおう内容となっている。

本番のツアーを前に、「EU/ドイツの製造業におけるデジタル変革の最前線を探る-ハノーバーメッセ2024から学ぶべきこと」と題し、欧州・ドイツ製造業DXの潮流やハノーバーメッセの見べきポイントなどを解説する。



■オブテックス・エフエー、2月22日に現場川柳10周年イベント「現場川柳ナイト」開催

オブテックス・エフエーは、2月22日18時〜京都リサーチパーク10号館1階で、現場川柳10周年イベント「現場川柳ナイト」を開催する。見ル野楽司氏、おおひなたごう氏、和田ラゾオ氏、田中光氏の漫画家4人をゲストに迎え、現場川柳を軸にものづくりトークや漫画のライブイベントなどを行う。

■パトライト、22日13時半〜ウェビナー「とにかく見える化〜とにかく仕組み化」のための『見える化』

パトライトは、2月22日13時半〜ウェビナー「とにかく見える化〜とにかく仕組み化」のための『見える化』を開催する。

人気の書籍【とにかく仕組み化】の各論を切り口に、製造業における実践的な事例を交え、経営者の皆さまにビジネスの舵取りをより確かなものにするためのポイントを紹介。1部は識学による「責任と権限の見える化、比較と平等の実現」、2部はパトライトによる「見える化の重要性」を解説する。

工場をいろんな無線でつなぎます

ADVANTECH

Enabling an Intelligent Planet

ECU-1051(LTE/Wi-Fi)
ECU-150(LTE/Wi-Fi)
ECU-1252(LTE/Wi-Fi/CAN)
エッジゲートウェイ



ARM A8 ARM A53x4 ARM A8

WISE-4220(Wi-Fi 2.4G)
WISE-4210(SUB-G)
WISE-4471(NB-IoT/LTE-M)

WISE-2210(SUB-G)
WISE-2211(SUB-G)
WISE-2200-M(LoRaWAN)
CT給電対応/アナログ入力

WISE-4610 (LoRaWAN)
WISE-4671 (NB-IoT/LTE-M)

WISE-40XX
(Wi-Fi 2.4G)

WISE-S100
タワーライトセンサ後付け

WISE-2410(LoRaWAN)
WISE-2410X(LoRaWAN)
振動センサ電池駆動型

いろいろ選択可能な入出力を提供

アドバンテック株式会社
<https://www.advantech.com/ja-jp/>



[東京本社] 〒111-0032 東京都台東区浅草6-16-3

TEL : 03-6802-1021 FAX : 03-6802-1022

[大阪支店] TEL : 06-6267-1887 FAX : 06-6267-1886

[名古屋支店] TEL : 052-291-4860 FAX : 052-291-4861



不可能を、可能に — それが、SICKのセンサインテリジェンス。

SICK
Sensor Intelligence.

 本社：東京都中野区本町1-32-2ハーモニータワー13F TEL. 03-5309-2115
URL <https://www.sick.com/jp> e-mail support@sick.jp

Electronics Solutions Company

KANADEN

株式会社 カナデン

この技術が、世界を変える。
この技術で、未来を変える。
change the world, for the future.
HOKUYO
<https://www.hokuyo-out.co.jp/>
 FA・製造業の最前線から生の声をお届け
<https://automation-news.jp/fa-interview/>

工場新設・増設、設備投資情報

オートメーション新聞WEB URL付き記事はこちらから→<https://www.automation-news.jp/category/factory/>

国内

■東洋刃物、宮城県富谷市の富谷工場MS棟が竣工 EV用Li電池用刃物を増産

東洋刃物は、事業製品の中核である情報産業用刃物(MS)の増産に向けて、宮城県富谷市の本社敷地内に、新棟を建設した。

MSは、EV用Liイオン電池の製造や、コンデンサ、液晶ディスプレイなどに使われる電子材料の加工、5G通信などで増え続ける記録メディアや機能性フィルムの加工にも使用される工業用刃物。MS棟は、鉄骨造一部2階建てで、延べ床面積は4355平方メートル、敷地面積は、9万2644平方メートル。今年5月の着工。新規設備を導入し、別工場からも設備を移設し、2023年12月下旬から順次、稼働させていく計画。投資額は11億円。

■三菱マテリアル、リチウムイオン電池リサイクル技術のパイロットプラントを福島県いわき市に建設

三菱マテリアルは、リチウムイオン電池(LIB)リサイクル技術の確立に向け、福島県いわき市の小名浜製錬小名浜製錬所の敷地内にパイロットプラントを建設して、LIBを放電・乾燥・破碎・選別したリチウム、コバルト、ニッケルの濃縮かすであるブラックマスからのレアメタルの高効率回収の事業化に向けた技術開発に取り組む。

同社はこれまでブラックマスからリチウム、コバルト、ニッケルなどのレアメタルを回収・精製する事業化に向けて、これまで小規模試験による技術開発を行ってきた。一定の成果が得られたことから、福島県いわき市の小名浜製錬所の敷地内にパイロットプラントを建設して、ブラックマスからのレアメタルの高効率回収の事業化に取り組む。2025年稼働開始。

■堀場エステック、京都府福知山市にマスフローコントローラ等の生産工場を建設

HORIBAグループで半導体事業を手掛ける堀場エステックは、主力製品のマスフローコントローラや薬液濃度モニターなどを生産する新工場を京都府福知山市に建設する。2024年7月に着工、2026年1月に竣工予定。

新工場は、同社グループとして過去最大の投資額170億を投じ、最新設備により自動化・効率化を促進する量産技術の基幹工場とする予定。約1万平方メートルの生産エリアを備え、国内におけるMFC生産能力を現状(京都工場+阿蘇工場)の最大

約3倍まで拡張することが可能となる。敷地面積は、3万6011平方メートル、延床面積は、2万3292平方メートル(2階建て)。

■東京ボード工業、千葉県佐倉市の佐倉工場にチップ乾燥設備

東京ボード工業は、「佐倉工場チップ乾燥設備故障」に関して、焼損したチップ乾燥設備の代替品として、同程度の乾燥能力を有し、かつ火災発生リスクが抑えられる新たなチップ乾燥設備を取得する。取得価格は約7億円。2024年11月稼働開始予定。

■スプレッド、神奈川県秦野市に次世代型のカットレタス加工工場を建設

スプレッドは、カットレタスの次世代型加工工場「テクノフレッシュ秦野」の建設を開始した。業界最長クラスの消費期限(加工日+最大6日)を実現したカットレタスを、最大消費地である関東エリアへ迅速かつ安定的に供給することを目指す。生産開始は2024年6月を予定している。

新工場は、次世代型植物工場「Techno Farm」で農業を使わずに栽培されたクリーンなレタスを使用し、最先端の自動化設備と専用加工技術を組み合わせた次世代型加工工場。世界初となる「AIレタス芯抜きロボット」をはじめとして加工工程の85%を自動化し、生産性の向上と高い鮮度保持を実現した。敷地面積は約4800平方メートル。

■アイカ工業、茨城県古河市の茨城工場内に高級人造石の加工ラインを増設

アイカ工業は、約7.7億円を投じて茨城県古河市大和田の茨城工場内に新工場棟を建設し、高級人造石「フィオレストーン」の加工ラインを増設する。稼働開始は2024年秋を予定しており、生産能力は現状の約1.5倍に向上する。

世界的に良質な大理石が入手困難となる中、インテリア業界では、天然水晶に樹脂などを配合して成形した高級人造石の需要が拡大している。旺盛な高級マンション需要の継続、洗面などへの用途の拡大、インバウンド回復によるホテル需要の伸長によって高級人造石市場は成長を続け、フィオレストーンのさらなる売上拡大が見込まれることから、約7.7億円を投じて既存工場棟の隣に新工場棟を建設し、加工ラインを増設する。稼働開始は2024年10月を予定しており、カウンタ加工品の生産能力は現状の約1.5倍に向上する。

■シャボン玉石けん、福岡県北九州市若松区の工場を拡張&本社機能を移転

シャボン玉石けんは、福岡県北九州市若松区の工場を拡張し、さらなる生活者のニーズに応える生産能力拡大計画に着手する。これに伴い本社機能の一部を2024年6月に福岡県北九州市小倉北区の複合商業施設内へ移転する。

シャボン玉石けんの成長戦略の一つである「事業基盤の進化・強化」に向けて、2022年から取り組んでいるスマートファクトリー化と合わせ、2024年からは事

務所跡地への工場拡張・製造ラインの設備増強を行い、2026年完成を目的に生産能力の拡大に着手する。

海外

■日清食品ホールディングス、ブラジルに即席麺の新工場建設

日清食品ホールディングスの子会社であるブラジル日清(NISSIN FOODS DO BRASIL LTDA.)は、ブラジルのパラナ州ポントアグロ市に新工場を建設する。2024年6月に着工し、2026年3月の稼働開始を予定している。

新工場は、1981年に稼働を開始したサンパウロ州イビウナ工場、2012年に稼働を開始したベルナンブーコ州グロリアドゴイタ工場に次ぐ3番目の生産拠点となる。拡大するブラジルの即席麺需要に対応するため、生産能力を増強さらに、輸出品の生産強化、製品ラインアップの拡充をする。敷地面積は、41万3223平方メートル、工場延床面積は、6万8236平方メートル。投資金額は、約315億円。

■大日本印刷、米国ノースカロライナ州にリチウムイオン電池用バッテリーパウチの工場用地取得

大日本印刷は、リチウムイオン電池の外装材であるバッテリーパウチを生産する工場用にアメリカ合衆国ノースカロライナ州に建設用地を取得した。

同社はすでに国内では福岡県・戸畑工場と埼玉県・鶴瀬工場内にバッテリーパウチの生産工場を展開しており、海外ではグループ会社のDNPデンマークで、バッテリーパウチのジャンボロールのスリット加工を行う工場を新設するなど適地生産・供給体制を構築している。今回、さらなる伸長が見込まれる米国市場の需要に対応し、新たなバッテリーパウチ工場の開設に向けた土地取得した。

2026年度に本生産拠点の稼働を目指し、今回の工場用地取得と、スリット加工ラインの導入に100億円規模の投資を計画。その後、市況や需要に応じて、同一敷地内でのジャンボロール製造も視野に入れて検討していく。

■保土谷化学工業、韓国事業の強化に向けて生産設備増強

保土谷化学工業は、韓国での事業強化に向け、グループ会社での設備投資を実施する。

SFCはバイオ事業の研究開発・生産の新たな拠点となるBio Park(忠清北道清州市)を新設。プロセスを構成する発光・消光材、オリゴユニットの合成・精製などに強みを持つ技術で、安定成長が見込まれる診断キット用材料の需要取り込みに加え、次世代医薬品である核酸医薬原料向けオリゴ核酸への参入を目標とする。

また、REXCELでは、有機EL材料の生産拡大半導体材料への応用展開に向けて、2024年初めに既存工場の設備能力を2倍に増強する。グループ全体の有機EL材料の販売増に伴う増産体制の整備に加え、有機EL事業で培った高純度かつ効率的な精製が可能な独

自技術を生かし、半導体材料分野への進出を狙いとす。

■MIPOX、インドに研磨関連製品の工場

MIPOXは、インド子会社であるMIPOX Abrasives India Pvt. Ltd.に新工場を建設する。

現在、同社は自動車関連用途向け研磨製品の二次加工および当該製品販売を主とし、新たにインド市場向けの橋梁や建設関連用途向け研磨製品である研磨ディスクの開発と生産を開始する。現工場では、事業拡大に伴う生産能力の増強が難しい状況だったが、新たに取得した工場は現工場に比べ2倍以上の広さになる。準備が整い次第、新工場への移転を行う予定。2024年1月操業開始予定

■富士フィルム、米国ウィスコンシン州・カリフォルニア州の2拠点に総額約2億ドルの設備投資

富士フィルムは、市場成長が見込まれる細胞治療薬の開発・製造受託ニーズに対応するため、細胞治療薬のCDMO事業を展開するiPS細胞のリーディングカンパニーであるFUJIFILM Cellular Dynamics(フジフィルムセルラーダイナミクス)のウィスコンシン拠点と、バイオ医薬品CDMOの中核会社FUJIFILM Diosynth Biotechnologies(フジフィルムダイオシンバイオテクノロジー)のカリフォルニア拠点に対して、総額約2億ドルの設備投資を行う。

総額約2億ドルをかけて、2025年にカリフォルニア拠点、2026年にウィスコンシン拠点に細胞治療薬のプロセス開発用ラボおよび製造設備を導入し、受託能力を大幅に増強し、生産能力を倍増させる計画。

FCDIウィスコンシン拠点の敷地面積は、約5万1000平方メートル。2023年11月着工、2026年稼働。FDBカリフォルニア拠点は2024年着工、2025年稼働。

■パナソニック、マレーシアの空調空質のR&D新棟が稼働

パナソニック空調空調社は、マレーシアのパナソニックAPエアコンR&Dマレーシアに建設した新棟が稼働。同社初の「温水・空調同時マルチ実験室」など最新鋭の設備を導入し、ASEANや欧州を中心としたグローバル向けに、空調機器の開発リードタイムを短縮、現地ニーズに合わせた開発を加速させる。

新棟は3階建てで延床面積は1万900平方メートル。3階に将来の増員に備えたオフィスを構え、1階から2階はさまざまな実験室を設置している。これまでA2Wや水循環型空調などの水を使う機器の計測は外部機関で行っていたが、新棟では初めて水の給排水設備を備えた半無響電波暗室を設置。社内で迅速に検証できる体制を整え、開発スピードを加速させる。

Just in your products
Just Products

挑戦する盤メーカーをサポートする会社

コスト、生産性、脱炭素。
それだけにどとまらない、
銅バー加工の外注の
メリットをお伝えします。

株式会社ジャストプロダクツ

世界の製造業が採用
IPC 品質標準規格

グローバルに通用する製品品質を備え、
世界各地での躍の第一歩に——



ジャパンユニックスでは
IPCの標準規格書・情報・サービスを
提供しています

IPC 標準規格書 無料版 まずはwebからダウンロード

『IPC』『規格』『無料』で検索

はんだ付工程を
見える化する

卓上型はんだ付ロボット UNIX-DF シリーズ

- 『Soldering Manager』でははんだ付のIoT化へ
ジャパンユニックス独自のはんだ付ロボット管理ソフトウェア・『Soldering Manager』を使用して
モニタリング・稼働ログの保存が可能
- 3D ソルダリングの実現
付加軸2軸を加えた6軸同時制御により
ロボット操作のみで複雑形状の製品へのはんだ付が容易に



ジャパンユニックス製品 導入事例集 webにて公開

『はんだ付 導入事例』で検索

 株式会社 ジャパンユニックス
<http://www.japanunix.com>

 本社 〒107-0052 東京都港区赤坂2-21-25 Tel. 03-3588-0551 Fax. 03-3588-0554
大阪営業所 Tel. 06-6190-4580 Fax. 06-6190-4581 名古屋営業所 Tel. 052-679-2111 Fax. 052-679-2112

テクノセンター Tel. 096-287-4501 Fax. 096-287-4503